

保育児童学科 1 年生対象「保育キャリア基礎演習」

数的推理授業見学感想

保育児童学部 教授
文学修士 関口はつ江

1 授業開始。総長中島恒雄先生より、公務員試験に合格することの意義のお話により、授業への動機づけが行われました。保育士の資格取得者であっても、必ずしも保育職に就けない時代があったこと、現在とは異なる状況ではあっても、公務員保育士は職場が安定し、待遇もよいことから、公務員を目指すことが幸せにつながるということが説明され、学生の学習意欲が高められたと思います。

2 授業展開（授業担当近藤高史先生）

教科書 p71（9）の類題1 が r 学習が行われました。数学は保育系の学生には苦手意識がありますが、設問の意味問題の解き方が丁寧に説明され、また、その解き方がなぜ有効かを確認しながら進められましたので、学生は抵抗感がなく、問題に取り組んでいたと思います。

問題ごとに解答の確認がありましたが、特に大切なことは「全員」ができるまで、「待つ、繰り返す」ことが強調されたことです。ところどころで総長先生が、学生の立場になって、説明の分かりにくいところ、全員が正解していることへの確認の指摘がなされました。そのことによって、とかく教師が自分のペースで進めがちになることへの反省がされました。介入させるタイミングが的確であったことは、長年の教育のご経験によるものと拝察いたします。

ご担当の近藤先生は学生が気持ちよく授業に打ち込めるように言葉遣い、間の取り方などの気配りをされ、学生の応答も率直で、よい関係の中で授業が進められていることが伝わりました。

3 以上の授業から

今回の授業では、誰もが繰り返し練習し、努力することで、できるようになることを確認され、「できない子をできるようにする」、それによって学生が自信を持てること、学生がエリートを目指すことができることを教育することが、学生のためになることを共通理解しました。授業実践においては、学生一人一人に対して細かい配慮が必要であることを理解しました。